

倫友交友録
一語一会

「信ずれば成り、
憂えれば崩れる」

(信成万事)



9月から新年度を迎えた石川県倫理法人会。今回の「一語一会」は、伊藤祐基石川県倫理法人会会長と、野竹夏子七尾市倫理法人会会長、市濱光晴奥能登倫理法人会会長をお招きして、新年度の抱負と、能登における倫理法人会の活動について語っていただきました。

石川県倫理法人会の25年、 経営者としての25年

伊藤 ● 今年は、倫理研究所設立 70 周年を迎える節目の年です。また石川県倫理法人会が設立して 25 年が経ち、このような時に石川県倫理法人会の会長を仰せつかったことに深いご縁を感じます。

私が入会したのは石川県に倫理法人会が設立された平成 2 年でした。26 才で、ちょうど祖父から事業を受け継いだ年でした。ですから、石川県倫理法人会の歴史と私の経営者としての歩みは、ちょうど重なるのです。決してまじめな会員ではなかったかもしれませんが、ここまでやってこれたのは倫理の学びがあったからだと思っています。

野竹 ● チャーターメンバーになられるんですね。私は倫理歴 8 年目ですので、大先輩ですね。

伊藤 ● 初代県会長の表さんに会計を見ていただいていたのがご縁でした。市濱さんは、何年目ですか。

市濱 ● 奥能登が開設された平成 21 年入会ですので、7

年目ですね。

伊藤 ● 古株ということもありまして、初代の表県会長をはじめ歴代の 7 人の県会長みなさんと公私にわたりお付き合いがありました。

2 代目県会長の今井さんとは、平成 13 年 7 月に松任市準倫理法人会（現白山市倫理法人会）が開設され今井さんが会長になられた時、私も松任に移籍しましてそれ以来のお付き合いです。

平成 15 年 9 月に、今井さんの跡を受け白山市倫理法人会の会長を拝命しましたが、そのときの県の会長が梶谷さんでした。

4 代目西野県会長時代は、県の副会長を拝命しました。5 代目中崎県会長時代は、後継者倫理塾の立ち上げに携わらせていただきました。6 代目の小原さんとは、仕事を通じて、倫理法人会での出会い以前からのお付き合いでしたし、昨年度まで石川県を牽引されていた 7 代目中野県会長、連前幹事長とは、同じチャーターメンバーということもあり、弟のようにかわいがっていただいています。そういった皆さんから助けていただき、育てていただいた報恩感謝の気持ちと、最後に小原さんに背中

を押されたことが決め手となり、県会長の職を受けさせていただきました(笑)。

市濱 ● 伊藤会長が元白山市の会長だったとは知りませんでした。後継者倫理塾の塾長だとばかり思っていました。

野竹 ● 伊藤さんというと、後継者倫理塾の塾長のイメージが強いですね。

県会長というと、これまでは企業家が引っ張っていくという強面なイメージでしたが、伊藤さんは、「後継者倫理塾の先生が頑張っていることを教える」みたいな、柔らかい感じがして、いい意味で石川県倫理法人会が変わっていく期待感のようなものを感じています。

スローガンも「純情すなお」に変わりましたね。

「純情すなお」に寄せる思い

伊藤 ● 「純情すなお」についてどう思われましたか？

市濱 ● 単純に、良いと思えましたよ。倫理の学びの最終目標ですからね。



入会して一番変わったのが妻との関係。新婚当初が一番仲が悪かった。万人幸福の葉を読むと、自分と真逆なことが書かれていて「オレが間違っているのかな」と思うようになった。最近では、夫婦で話をするが増えました。親との関係も良くなり、家庭が良くなると仕事に集中できるようになりますね。

奥能登倫理法人会 会長
有限会社アーキコミュニケーションズ
代表取締役社長

いちほま こうせい
市濱 光晴氏

野竹 ● 「動けば、うごく」から「純情すなお」でしょ。はじめは、物足りない気がしましたが、時が経つにつれて、しっくりしてきました。

伊藤 ● 1300社の会員の心の一つにするにはどうすれば良いか、会長をお受けするにあたり悩みました。倫理法人会に入会して25年。自分自身が何の為に学んでいるのか考えてみた結果、原点に戻ろうと思いました。



倫理において学びの原点は、万人幸福の葉9ページに記されている通りです。

「明朗ほがらか、愛和なかよく、喜働よろこんではたらく、今一步おし進めてみますと、純情すなおの一つになります。ふんわりとやわらかで、何のこだわりも不足もなく、澄みきった張りきった心、これを持ちつづけること」とあります。「純情すなお」、これを持ち続け、倫友のみなさんと一緒に学んでいこうと思ったわけです。

野竹 ● 中野さんまでの歴代県会長が「行動」だったのに対して、静的な心を大事にやっという伊藤さんのメッセージを感じますね。

さすがは伊藤さん、根本のところを大事になさったなど。

伊藤 ● 26才で事業を引継、経営とは何かを必死に追求めて来ました。30才の時、たまたま1冊の本に出会ったんです。

船井幸雄さんの「これから10年生き方の発見—大転換期を生きる指針」。そこに人生、仕事で成功するには3つしかないと言われていました。

それは、「すなお」「勉強好き」「プラス思考」です。これは倫理の学びの原点とも重なりますよね。

昨年度まで塾長として関わってきた後継者倫理塾も、結局のところは、すなおになるためのトレーニングなんですよ。

奥能登、再興にかける

伊藤 ● 今年度、石川県が力を入れたいテーマの一つに奥能登の活性化があります。石川県倫理法人会の産みの親、藤井昶夫先生が門前のご出身ということもあり、奥能登は当会にとって特別な思い入れのある単位法人会です。

奥能登の灯を絶やすなど、連前幹事長も特別心を寄せていらっしゃいました。自分

の不勉強を晒すようですが、8月の能登空港で開催されたモーニングセミナーに参加した時に、奥能登が単位法人会の要件である会員企業50社ギリギリだと知り驚きました。

市濱 ● 50社を下回った場合、行動旗を返還しなければなりません。

奥能登も100社だった時代もあるのですが、紆余曲折の歴史があり、今のような状況になってしまいました。

中野県会長の2年目から、奥能登に特に目を向けてくださるようになり、少しずつですが風向きは良い方に変わってきているように思います。

朝食会の食事、ひどいときはコンビニのおにぎりでしたが、最近では山本事務長の働きかけもあり、地元のお母さん方がご飯をつくってくださるようになりました。本当にありがたいと思っています。

先に伊藤会長がおっしゃった能登空港でのモーニングセミナーも、はじめは難しいと言われましたが、開催することができました。これも会員の皆さんが心を寄せているからだと思い、そのことを思うと胸が熱くなります。

野竹 ● 金沢から見れば七尾も同じ能登地区ですので、連携できたならという思いもあるのですが、地理的になかなかそれも難しいのが現状です。

金沢市内の6単会は20～30分で行き来できますが、七尾と奥能登では40～50分はかかります。

市濱 ● 私自身、自宅から会場まで50分近くかかります。雪の積もる冬など、心が折れそうになることもあります。

伊藤 ● 市濱さんが自宅から会場まで50分かけてやってきて、冬は雪すかしなどして会場を準備されている、一生懸命な姿に心を打たれました。

市濱さん、高野さん、山本さんのほぼ3

人で会の運営を取り仕切っているわけですからね。

市濱 ● ですから、喜多さんのような女性に移籍していただき、お食事の準備を手伝っていただけることを本当にありがたいと思っています。連前幹事長、新田幹事には移籍していただき感謝しています。

伊藤 ● そんな大変な状況の中、どんな気持ちで会長職をお受けになられたのでしょうか？



社員が定年を迎える時に「イトウ紙工で働いてよかった」とそう言ってもらえるよう、会社を経営しています。倫理法人会も同じです。会員のみなさんに「入ってよかった」と実感していただきたい。人生の中で一番時間を費やすのが働いている時間です。倫理を学ぶことで、それを喜びにあふれる輝く時間にして欲しい。

石川県倫理法人会 会長
株式会社イトウ紙工 代表取締役

いとう ひろき 伊藤 祐基氏

市濱 ● 奥能登地区では、人口的にも、企業の数を見ても、やはり輪島市がリーダー的存在だと私は思っています。輪島市の企業を取り込まなければ奥能登は100社になれないでしょう。輪島市からリーダーが出てくるまでの私はつなぎ役に徹するつもりです。

奥能登に倫理を学ぶ場が残ってくれるなら、会の名前を輪島市倫理法人会に変えてもいい。それくらいの気持ちです。

伊藤 ● 先ほど野竹さんから、連携という言葉がでしたが、能美市と小松市の関係と似ているのかな、と思いながらお話を伺っていました。

今、石川県には4名の女性会長がいらっしゃいますが、横のつながりを大切に女性ならではの視点だと思います。

最近リーダーシップも変わり、ホリゾンタル・リーダーシップが大事だということをよく耳にします。ホリゾンタルというのは水平的という意味です。

カリスマ的トップによる縦の組織づくりではなく、共感、コミュニケーションによ

る調整を大事にする、いうならば横の組織づくりですね。

男性はタテ社会というように縦の繋がりを重視しがちですが、コミュニケーションが上手で、共感力、調整力が高い女性に適したリーダーシップではないでしょうか。

我々も取り入れていきたいと思っています。たとえば、委員会。これも会をまたいだ横の繋がりでですね。奥能登のナイトセミナーを研修委員会で応援するなど、一つ一つ実行に移していきたいと考えています。

七尾市倫理法人会、日本一への挑戦

市濱 ● ところで、七尾市は11月にモーニングセミナー日本一を目指しています。日本一を目指せるだけの会だという証ですよ。素晴らしい。早く奥能登も七尾のような会にしたいです。

野竹 ● 石川県倫理法人会設立25周年記念式典の帰路、バスに七尾市倫理法人会の歴代会長4名が乗り合わせまして、初代山口さん、2代目中橋さん、4代目市村さん、5代目番匠さん。そこで、山口初代会長が「もう1回日本一を取りたい」とおっしゃったところ、中橋さんをはじめ、みなさんがやろうと盛り上がりまして。11月に500回記念モーニングセミナーがあるので11月にやりましょうということになりました。お酒もほどよく入って気持ちが大きくなったんでしょうね（笑）。

伊藤 ● ということは、準備期間2ヶ月ですか。それはまた、急ですね。

野竹 ● 最終的に全講話者が決定したのが9月28日でした。役員が協力し合いながら、休眠状態にある会員企業90社を、また県内の各単会を手分けして回り、参加者名簿を4回合計で1,000名集めました。あと、200名ほど追加したいと考えています。七尾市倫理法人会は、やればできるのだという雰囲気にも包まれています。みんなのつてます！

伊藤 ● 石川県としてもモーニングセミナーの活性化を活動の重点にしています。村上幹事長は、金沢市の会長として年間日本一を目標に掲げ、月間モーニングセミナー日本一をもっとも多く達成された方です。その経験と実績を会の発展に生かしてもらいたいと思っています。

2月に白山市が日本一を達成しました。白山市は、大藪会長の後継者がなかなか決まらず、単位法人会の会長任期は通例なら2年なのですが、3期目になっていました。しかし、日本一を目指す過程で奥田さん（現・白山市会長）のような新たな人材があらわれたんです。白山市は、自単会出

席率50%という信じられない記録で、日本一を達成しました。奥田さんは運営委員から会長という異例のスピード出世をなされました。

野竹 ● 大きな目標を掲げ、それに向かって取り組むことで、役員的心が一つになります。七尾市は今まさにその状態にあります。七尾市倫理法人会は、意外と思われるかも知れませんが七尾市の中心部に会員が少ないのです。日本一を目指すのは、豪華な講話者陣によるモーニングセミナーによりブランドイメージをあげ、七尾市内の会員を増やしたいという狙いもあるのです。



はじめてモーニングセミナーに参加した時は、歌や輪読の大きな声にびっくりしました。しかし、みなさんが頑張っている様子、自分を良くしたいという姿勢が見て取れて、心地よかったのを覚えています。ここに来れば私も触発されて良くなるのではと思って入会しました。

七尾市倫理法人会 会長
有限会社野ばら 代表取締役
魚菜家野竹・御宿つむぎ庵

のだけ なつこ 野竹 夏子氏

すなおの陰の実践、陽の実践

伊藤 ● 心をつににするということですが、2つの方法があります。

ひとつは「一心同体」。2人または多くの人が、心と体、つまり意志と行動、形式を同じにすることです。これは悪くすると、個性は抑圧され、全体主義におちいつたりします。

それに対して、「異体同心」という言葉があります。心は同じだが行動は異なるという意味です。同じ目的目標にむかって行動するが、各人の個性、特性は尊重される。私は、この「異体同心」がいいと思うのです。

一心同体が外からの抑制だとすると、異体同心は個人の内発的な団結、自主性の尊重になります。言い換えると、自分との約束ですね。

倫理ネットワークの70周年特別号に丸山敏秋理事長のインタビューが掲載されていました。「法人会員に何を期待しますか」

という問いに対して、理事長はこうおっしゃっています。「実践者が増大すること。実践がないのであれば、倫理なんて知らない方が良い」。これは、自分自身の学びの重要性を説いているのだと思います。

市濱 ● すなおの実践ですね。

伊藤 ● また、纯粹倫理入門には、「すなおには陰と陽の2つがある」と書かれています。

陰は、受け入れる行為。これはハイの実践ですね。

陽は、即行、直行。自分で決めたらやってやってやり通す。

野竹 ● なるほど。陰と陽の両面の活動が大切ですね。

伊藤 ● 陽の実践として何をなさっていますか？

市濱 ● 会長になって、これだけはやり通そうと思っていることがあります。それは、毎回モーニングセミナーの会場へ一番先に行って、みなさんを出迎えることです。

野竹 ● とにかく休まない。全モーニングセミナーに出席して会長挨拶を欠かさずしたいと思っています。

伊藤 ● 私は、石川県の会員社数を2年間を通して常に1300社以上をキープし続けることですね。そのためには「この会に入って良かった」「助けられた」と思う私のような会員を一人でも多く増やしたい。できれば1300社全会員にね。それを目標に、県はサービス部門ですから、12の単位法人会の会長をバックアップしていきたいと思っています。

GoodDay+ NEWS グッドディプラス ニュース

後継者倫理塾 第7期生入塾式開催!

平成27年10月24日
 石川県青少年研修センター



平成27年10月24日(土)に石川県青少年研修センターにて、後継者倫理塾第7期生の入塾式をとり行いました。県役員の皆様や各単会の会長様をはじめ、多くの役員の方々、倫友の皆様にご臨席を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

伊藤祐基県会長から第7期生10名に入塾証が手渡され、私から万人幸福の葉とバッジを手渡しました。戸惑いながら初回のカリキュラムを受け、そんな中でも自分の悩みや想いを打ち明ける塾生もおり、一年かけてしっかりサポートをしなければとスタッフ一同心に誓いました。

今後は塾のみならず、各単会のモーニングセミナーに参加する機会も増えるかと思えます。まだまだ未熟な塾生たちですが、様々な学びを得るために一生懸命実践していくことと思えます。ご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、ぜひ暖かく応援して頂ければ嬉しく思います。

一年後、第7期生10名がそれぞれの答えにしっかり辿り着いているよう、スタッフ一同全力で運営に努めます。

石川県後継者倫理塾塾長 連 友也

後継者倫理塾 第7期生

- 石田 行広 ◆ 株式会社 田中兄弟自動車商会 (加賀市)
- 上野 綾子 ◆ 灘浦運送 株式会社 (金沢市北)
- 川谷内 淳 ◆ 川谷内塗装 (金沢市北)
- 塩谷 啓輔 ◆ 有限会社 小松メンテック (小松市)
- 高長 俊介 ◆ A.Lab 株式会社 (能美市)
- 早川 将 ◆ 福井車輛輸送 株式会社 (金沢市西)
- 藤橋 和之 ◆ 株式会社 フジ観光開発 (金沢市)
- 牧口 敬 ◆ M1ほけんクリニック (小松市)
- 南 勝大 ◆ 株式会社 ミートビック (金沢市北)
- 山口 宗大 ◆ 山成商事 株式会社 (七尾市)